



移住People 佐島から

Interview 1

横須賀バイリンガルスクール主宰

井上美美さん

profile

横浜市戸塚区出身。フェリス学院大学卒業後、総合学習塾で英語教師をつとめ、後に横浜市認可保育園で日本人の子どもに英語を教える。英語を教え込むやりかたに違和感を持ち、文化の交流も楽しみながら教育したいとの思いから1クラスに外国人と日本人を50%ずつ構成する「横須賀バイリンガルスクール」を2013年に横須賀でスタート。米国人のご主人との結婚を機に2009年から横須賀市佐島に住まいを移した。地元のかたがたや米国人仲間とも交流が深く、現在5匹の犬たちと横須賀ライフを満喫している。



2009年に横須賀に移住されたのはこの佐島のお家からですか。
そうですね。主人がアメリカ人なので、家のコンセプトとして庭が広くて駐車場に車が2台置けるスペースが必要なのです。犬もいたので散歩もしたかった。そんな環境を横浜で探すところでもない豪邸になるし、横須賀の東側にもそういった住宅はなかった。また東海岸だったら横浜に住むのと同じ感覚かなと。偶然この家が見つかったのですが、海も近いしご飯もおいしいし環境もゆった

りしていました。これだったら佐島まで来る意味があるなと思いました。
——ご主人がネイビー関連のお仕事をされていると聞きしました。
そうですね。ですから横須賀の東側には親近感はあるのですが佐島という地名もしらなかつたくらいです。わたしは月曜日から金曜日までは横浜や東京都内で仕事をするので疲れることもありですが、週末になると一気にオフになります。
——週末の過ごし方はどのように？
サーフィンですね。一色海岸から鎌倉まで行きます。もう5年くらいでしょうか。最近ではサップです。すぐその海岸から出ることができるので。あとはランニングですね。横浜にいる頃は20歳代で週末といえば桜木町でご飯を食べたりする生活でしたが、週末は朝早く起きて海に行く今の生活はわたしにとっては大きな変化でした。主人は近所の仲間とガレージを借りて、クラシックなクルマを修理して楽しんでいます。野菜はこちらにきておいしいものを多くとるようになりました。近隣の横のつながりが広がって、農園のとれたて野菜をいただいています。あと「すかなごっそ」に買いに行ったりしています。
——横須賀への通勤は車ですね。
そうですね。最近山を突き抜ける道路ができたので横須賀中央まで20分くらいですよ。週に2、3回は都内にも行きます。
——横浜にいた頃とこの佐島ライフとの違いはなんでしょうか？

ゆったりしていますよね。都会を完全に切り離せるのです。ジョークですが、横浜にいたころは友人から来たメールはすぐに返信していたのに佐島に来てからは返信が遅いといわれます（笑）。しかし都内からの距離もすごく遠いわけではなくて、さらに横須賀にはこんなにおいしい野菜やお魚があると知らなかったんですね。ご近所の方が漁でとれたてのイワシをもってきてくれたり、野菜をいただいたりとてもフレンドリーなのです。2009年に引越してきて翌年に海岸でウミガメが産卵するからと知らされて、すごい人数で見に行ったんですね。それはここでしかない感動でした。都内から友達遊びにきても観光的な遊びじゃなくて山に登ってみようとか知り合いの畑にいてみようとか、都会ではできないことをしてあげられるの、とても喜ばれています。



移住のすすめ³

横須賀西海岸 編

横須賀市は、東京や横浜へのアクセスもいい上に住宅の取得もしやすく、とくに子どもを育てる環境は神奈川県内でもトップクラスです。これまで横須賀のイメージは、カレーや軍港など東海岸に集中していました。そこで今回は北を葉山町、南は三浦市と接する「横須賀西海岸」に注目してみました。相模湾に面した海、自然豊かな三浦半島の山を擁した美しい海岸線が舞台です。

横須賀西海岸



季節の花々が咲き誇るソレイユの丘



西海岸の名所、秋谷海岸の立石



長者ヶ崎からはじまる横須賀西海岸通り



三浦半島最高峰の大楠山から相模湾を望む

長者ヶ崎から南へ、豊かな自然、地場産の食と魅力あふれる 横須賀西海岸マップ

逗子、葉山を抜け、長者ヶ崎を南下すると風光明媚な横須賀西海岸が広がります。そこは穏やかな海と美しい緑に囲まれた“大人”な雰囲気漂うエリア。農漁業も盛んで、豊富な漁場と肥沃な土地がもたらす海の幸と大地の恵は、本物の食の豊かさを感じさせてくれます。東京や横浜へのアクセス圏ながら、上質なライフスタイルが実現できる魅力的な環境は、一度体験すれば納得のはず。知る人ぞ知る穴場の移住先として注目されています。



①長者ヶ崎

葉山町との境にある岬。ここから魅惑の横須賀西海岸は始まる



⑥天神島

三浦半島に残された数少ない自然海岸の一つ。きれいに整備された砂浜は家族が安心して遊べる



②前田川遊歩道

自然環境の残された貴重な河川を散歩できる。その清らかさは美智子皇后もお気に入りという



⑦長井漁港

相模湾でも有数の規模を誇る漁場。直売センターも隣接されており、鮮度バツグンの魚介類が手軽に手に入る



③湘南しらす

全国的に知られるしらすのトップブランド。横須賀西海岸には多くのしらす小屋が点在



⑧すかなごっそ

神奈川県最大級の農産物直売所。地元で採れた野菜を求めて、遠方からもわざわざ客が訪れるほど



④佐島の鮮魚

旬で新鮮な地魚をはじめ、タコは「西の明石、東の佐島」と呼ばれる逸品。さらにマダイは皇室献上品になったことも



⑨ソレイユの丘

東京ドーム4個半分の敷地が広がり、年間50万人が訪れる体験型公園。季節の花が咲き誇り、子どもが楽しめる遊びも豊富に



⑤湘南佐島なぎさの丘

佐島の小高い丘に広がる分譲住宅地。敷地からは相模湾や富士山も望める



⑩荒崎海岸

自然が創造した美しい岩場は、三浦半島屈指の景観と言われ、「かながわの景勝50選」にも認定



「このエリアは桜井さんの生活圏でもあります。ですが暮らしやすさはいかがですか。」
やはり富士山の景色と海と山があることですね。そして前田川のリバーウォーク、佐島のお魚、新鮮な野菜があること。東京にいた頃は雨が嫌いだったのですが、ここに来てからは雨の音が違って聞こえて来ることに気がつきました。風の音もコンクリートをくぐって来るのではなく、草や木を抜けてくる音なんです。それは本来人間に必要なもののかなと思います。都心から1時間の立地にこんなに自然が感じられる素晴らしいところはありません。しかし正直最初の3年間は慣れませんでした。根っからの都会っ子で空気の悪いところで育ちましたから（笑）「なんだか空気の匂いに変じやない？」と妻に言ったら「これが本当のフレッシュ・エアなのよ」って笑われました。自然のきれいな空気に違和感があったんですね。
また、都会にいれば安い物がすぐになんでもできたけど、ここに来たらそれが少し違いました。ねじ1本買いに行くのも車で20分、最初は不便だなと思いましたが、それが生活の一部になったら買い物も楽しみのひとつになります。
（コリーンさん）わたしは歌手のころもホテル住まいだったり、各地を転々と仮住まいばかりでしたから、ここははじめてのマイホームだと思っています。まわりの人々も素晴らしい人ばかりです。でもチョット



「このエリアは桜井さんの生活圏でもあります。ですが暮らしやすさはいかがですか。」
やはり富士山の景色と海と山があることですね。そして前田川のリバーウォーク、佐島のお魚、新鮮な野菜があること。東京にいた頃は雨が嫌いだったのですが、ここに来てからは雨の音が違って聞こえて来ることに気がつきました。風の音もコンクリートをくぐって来るのではなく、草や木を抜けてくる音なんです。それは本来人間に必要なもののかなと思います。都心から1時間の立地にこんなに自然が感じられる素晴らしいところはありません。しかし正直最初の3年間は慣れませんでした。根っからの都会っ子で空気の悪いところで育ちましたから（笑）「なんだか空気の匂いに変じやない？」と妻に言ったら「これが本当のフレッシュ・エアなのよ」って笑われました。自然のきれいな空気に違和感があったんですね。
また、都会にいれば安い物がすぐになんでもできたけど、ここに来たらそれが少し違いました。ねじ1本買いに行くのも車で20分、最初は不便だなと思いましたが、それが生活の一部になったら買い物も楽しみのひとつになります。
（コリーンさん）わたしは歌手のころもホテル住まいだったり、各地を転々と仮住まいばかりでしたから、ここははじめてのマイホームだと思っています。まわりの人々も素晴らしい人ばかりです。でもチョット



profile

「再生の美」をテーマに鉄屑や古民具などの廃材を利用して独創的な作品に生まれ変わらせる造形作家。1962年、東京都江戸川区で熟練した建具職人の父の元に生まれる。若い頃からアメリカン50's ロカビリーの世界に心引かれ、原宿で有名なダンスグループを率いていた。その後憧れだったカリフォルニアに渡り、アメリカの古いものを買い付けて輸入する骨董商に。母の病気の為に帰国。その後妻のジャズ歌手コリーンさんとアジア各地をまわり、その土地々々の手仕事を学び、日本へ戻る。外から見てきた日本の伝統文化に開眼、物創りへの執着心へと変わった。95年に工房を開く。他国の文化を見て来た経験から日本のしきたりだけに固着するのではなく、現代の暮らしの中において不要となって捨てられ、忘れられた廃物たちをアートへと変身させるという挑戦を続けている。秋谷在住。

「今の生活はどんなサイクルでしよう？」
朝は6時前に起きます。何日も休まず創作に没頭することもあります。その日の天気によって、雨の朝だったり。最近の作風としては、人々の生活を支えて来てくれた物なのに、役割が終わると簡単に処分されてしまいう物たちに焦点を当て「つまらなく終わらせたくない」と日々、新たな命を吹き込む創作活動をしています。
横須賀西海岸にあらたに移住する読者に向けて一言を。
時間通りに物事を運ぶ仕事に就くのはむずかしいかもしれないですが、自由な時間にはおすすめです。息子がまだ小学生の頃、ここからサーフボードを持って海に出かける時に心配です。付いていきました。ビールを持って腰掛けて海を見ていると、いつのまにか息子の友達のお父さんもビールを買って横にいる。それがふたり、三人とだんだんと増

えていつてグループになつていく、ここはそんな土地なんです。人情が残っている町なんです。いまは東京にいると人や車が多すぎると感じて、早く帰りたい。（コリーンさん）トンネルを抜けて「湘南国際村入口」の交差点まで帰って来ると目の前に海が広がる、あの瞬間に「ああ帰ってきた」と感じます。僕たちのこの家は社寺仏閣で僕たちの家にはできないから、少し前に本家の古民家を取得したいと思い地方に別荘を探しに行つたことがありますが。ところがここに帰ってみると「なんで探しに行つたんだろうか、ここで十分じゃないか」とあらためて気がついたので。東京の友達が遊びにくると「夢みたいないところだね」って、自分たちがわざわざお金を払って遊びに行くようなところだと言います。そして、なかなか帰らない笑い。そんなところに住めるのは素晴らしいことですね。かつてはネオンの街の男が180度変わりました。またそれができる町でもあります。